

# 芦田川水害タイムライン 令和6年防災対応振り返りワーキング ニュースレター

令和7年1月15日（水）福山河川国道事務所及びWEB会議（13：30～14：30）



福山河川国道事務所  
令和7年1月15日

## ◆ 振り返りワーキングの内容

－次第－

1. 芦田川水害タイムラインの検討経緯・本ワーキングの目的
2. 令和6年度出水期の概要について
3. 今年度の水害対応にて顕在化した課題
4. 振り返り（意見交換）
  - ・ 振り返りアンケートの概要説明及び各回答に関する質疑等
  - ・ 予測水位を踏まえた洪水予報（トリガー情報）発表時のタイムラインレベルの取扱いについて
5. 今後の予定
6. 関係機関への伝達事項

### 1. 芦田川水害タイムラインの概要について

- ✓ 芦田川水害タイムラインの特徴
- ✓ 芦田川水害タイムラインのこれまでの検討経緯
- ✓ 本ワーキングの目的

### 2. 令和6年出水期の概要

- ✓ 台風の状況
- ✓ 今年度の水害タイムラインの運用状況
- ✓ 中国地方に影響を及ぼした主な豪雨

### 3. 今年度の水害対応にて顕在化した課題

- ✓ 7月11日の出水の背景
- ✓ 前提1：令和3年・4年の洪水予報の発表基準の変更
- ✓ 前提2：現行（令和6年運用）のタイムラインレベル移行に係る発表情報
- ✓ 課題：予測水位に基づく洪水予報が発表された場合のタイムラインの運用

### 4. 振り返り ※青字：次頁にて詳述

- ✓ 今年度の防災対応（出水対応）における水害タイムラインの活用状況について
- ✓ 令和4年度以降のタイムライン運用に関する防災対応上の影響について
- ✓ 住民・職員等への水害に関する周知・啓発の実施状況について
- ✓ [予測水位に基づく洪水予報発表時のタイムラインの運用方法について](#)
- ✓ タイムライン解除基準の追加の是非について
- ✓ 今年度の対応全般について
- ✓ 各機関の防災計画等の変更状況・タイムラインへの反映要否について
- ✓ 課題・改善案・自由意見

### 6. 関係機関等への伝達事項

- ✓ 水災害リスクコミュニケーションポータルサイトについて

## ◆ 参加機関

広島県 東部建設事務所管理課
福山市 危機管理防災課
福山市 上下水道局水づくり課
福山市 上下水道局上下水道計画課
広島県警察本部 警備部危機管理課
福山西警察署
福山北警察署
府中警察署
福山地区消防組合消防局 警防部警防課
広島地方気象台
中国電力ネットワーク株式会社 福山ネットワークセンター
福山ガス株式会社 供給本部 供給管理グループ
NHK広島放送局 コンテンツセンター
株式会社エフエム福山
八田原ダム管理所
福山河川国道事務所 流域治水課

# 予測水位に基づく洪水予報発表時のタイムラインの運用方法について

## 7月11日の出水対応の概要

【背景】 令和3年・4年の洪水予報発表基準の変更・追加により、予測水位に基づく洪水予報が可能となった

【状況】 7月11日午前0時時点：**実況水位：水防団待機水位未滿** **予測水位（6時間後）：氾濫危険水位の超過**  
➔ 予測水位に応じた**洪水予報（氾濫警戒情報：警戒レベル3相当）**を発表 ※氾濫警戒情報：**タイムラインレベル3**への移行基準の一つ

【生じた問題】 予測水位に基づき発表されたトリガー情報に従い、タイムラインレベルの移行を行うか判断に苦慮  
※結果として、午前7時時点では矢野原水位観測所のみ水防団待機水位（警戒レベル1）を超過（山手・府中水位観測所は水防団待機水位**未滿**）。  
いずれの観測所においても、タイムラインレベル3の対応が必要となる水位（避難判断水位）には至らなかった

【課題】 **精度の確保が困難な水位予測（特に4～6時間先の予測）に基づくタイムラインレベルの移行の基準が定められておらず、レベル移行に関する考え方を検討する必要が生じた**



アンケートにて、「予測に基づく情報発表時のタイムラインレベルの移行」に関する  
現行基準からの変更の是非を確認

## アンケート結果を踏まえた次年度以降の運用（案）

「すべての洪水予報発表に対し、自動的にタイムラインレベルの引き上げを行う運用とはしない」一方で、「予測水位による発表情報を考慮する」ための運用方法として以下の事項を「運用方法」に明記予定としていたが、総合的に判断し、「洪水予報発表に対し、タイムラインレベルの引き上げを行う」として明記予定

**運用案：予測水位による洪水予報の発表時も、原則としてタイムライン事務局にて、タイムラインレベルの引き上げを行う**

芦田川水害タイムライン  
運用方法

芦田川水害タイムライン検討会

## 上記に関するアンケートでの主な意見

「すべてのトリガー情報に対して、自動的にTLレベルの移行すべき」（**現行基準の維持**）と回答した機関の主な意見

- ・タイムラインは空振りを恐れず、最悪の想定に基づき早め早めの対応が求められているため。
- ・洪水予報の発表基準とタイムライン上の運用の考え方が整合している方が適切と考えるため。
- ・早めの準備により有事の際の迅速な対応を実現するため。

「降雨状況等を踏まえ、タイムラインレベルの移行を判断すべき」（**現行基準からの変更が必要**）とした機関の主な意見

- ・洪水予測の水位は、不確実性を伴い、予測の精度が低いのであれば、それに基づく運用はしないほうがよいと考えるため。
- ・現行の基準で移行のタイミングが遅いという状況なのかが不明瞭なため。
- ・洪水予報によるタイムラインレベルの移行は難しいと感じているため。